

登録コード	UAC59500	開講年度	2026			
授業題目	芸術コミュニケーション研究				担当教員	金井 直
					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・6時限	
				授業形態	講義	
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学					
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				現代美術に関する深い理解を基盤として、その問題を客観的・学問的に究明し、独自の理論構築や仮説検証ができるようになる。	
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				現代美術に関する深い理解を基盤として、その意義や課題について、他者と共有し、さらにはその可能性を拡張するための実践と協働の場を開くことができるようになる。	
(2)授業の概要	「現代美術と批評、そして社会」をテーマに、作品と関連テキストを多角的に照合・分析する。講義形式の授業ではあるが、必要に応じて、（１）関連資料読解（主に英文）（２）受講者間のディスカッション（３）実地調査を組み合わせながら進める。講義のキーワードは批評、制度、社会である。現在優勢な現代美術のみならず、その周縁の状況にも注意深く触れつつ、現代美術の範囲・射程を批判的に検討する。					
(3)授業計画	第１回： ガイダンス 第２回： 現代美術と批評、講義 第３回： 現代美術と批評、資料読解 第４回： 現代美術と批評、討議 第５回： 現代美術と批評、実地調査 第６回： 現代美術と制度、講義 第７回： 現代美術と制度、資料読解 第８回： 現代美術と制度、討議 第９回： 現代美術と制度、実地調査 第10回：現代美術と社会、講義 第11回：現代美術と社会、資料読解 第12回：現代美術と社会、討議 第13回： 受講者による発表と質疑応答（批評について） 第14回： 受講者による発表と質疑応答（制度・社会に即して） 第15回：まとめ 期末試験の有無 なし					
(4)成績評価の方法	以下を総合して判定する。 授業への取り組み方（70％）、レポート（30％） 評価割合は若干の調整を行うことがある。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀、89-80％ 優、79-70％ 良、69-60％ 可、59％以下 不可。					
(5)成績評価の基準	【卓越している】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料読解と受講者間のディスカッション、実地調査を組み合わせながら、作品と関連テキストを多角的に照合・分析する力において、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料読解と受講者間のディスカッション、実地調査を組み合わせながら、作品と関連テキストを多角的に照合・分析する力において、非常に高い水準にある。 【やや上にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料読解と受講者間のディスカッション、実地調査を組み合わせながら、作品と関連テキストを多角的に照合・分析する力において、高い水準にある。 【その水準にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料読解と受講者間のディスカッション、実地調査を組み合わせながら、作品と関連テキストを多角的に照合・分析する力において、一定水準にある。					
(6)事前事後学習の内容	事前学習：関連資料の精読を求める。事後学習：授業内容を踏まえつつ、関連事項について調査・研究を進め、最終レポートの執筆に活かす。					
(7)履修上の注意	配布資料（英文、和文）の精読を求める。 展覧会調査を行う（県内１回、東京等１回）。その際の費用は自己負担。 自主的に鑑賞経験を積み、多様な芸術表現についての知識・関心を深めておくこと。					
(8)質問、相談への対応	まず以下のアドレスにメールにて問い合わせること。 kanait@shinshu-u.ac.jp					
【教科書】	なし。					
【参考書】	Jerrold Levinson, The Oxford Handbook of Aesthetics, Oxford Univ., 2005. ほか。					